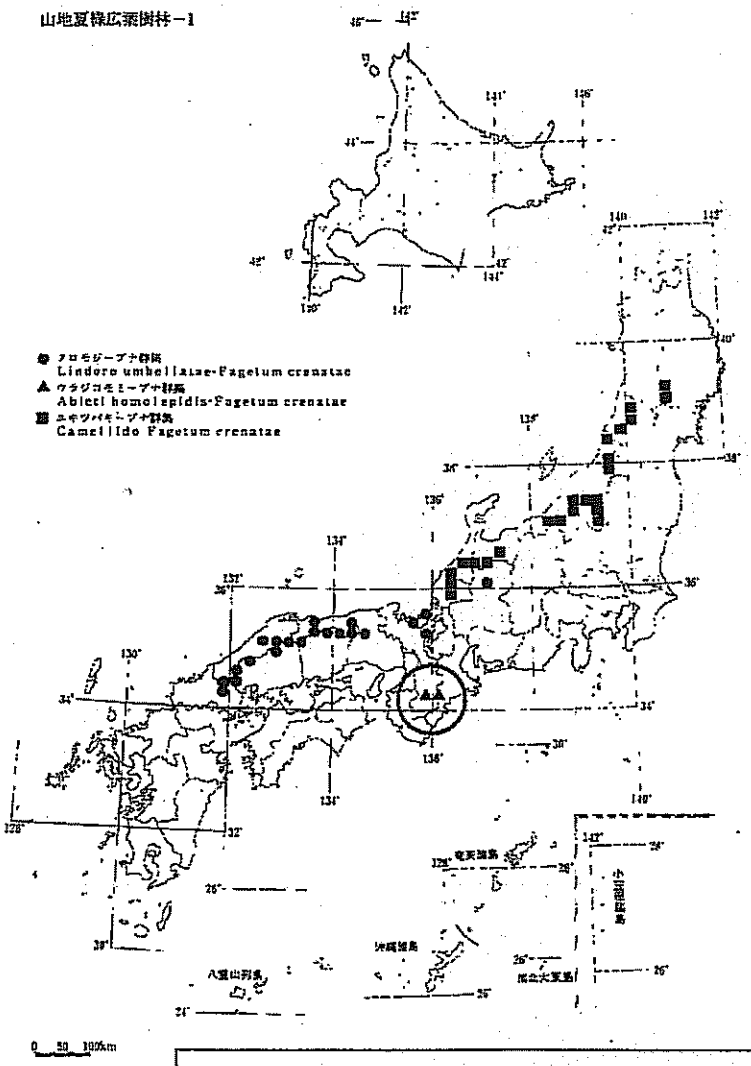
ウラジロモミーブナ群集

ウラジロモミーブナ群集は大峰山系、大台ヶ原周辺の海抜 1,320～1,760m の間にみられ、中庸な立地に気候的極盛相として発達している。ウラジロモミーブナ群集は年間4,500 mm以上という、わが国有数の降雨地帯に発達しているために、一般に見られるブナ林の構成種にウラジロモミという高地性のモミとヒノキを加え、独特の相観を持った森林を形成している。ウラジロモミは太平洋側のブナ帯に見られるが、一般にはブナ林の上部にウラジロモミ林をつくっている。また、ヒノキは富士山などで溶岩地帯にヒノキ林をつくっていてブナと混生することは稀である。大台ヶ原で混生しているのは、多雨、豪雨でわずかずつではあるが、浸食により土壌が悪化したためである。大台ヶ原のブナ原始林はこのような環境条件とつり合って、学術的にも貴重な森林の構成を示しており、森林保護の面からも重要な存在である。(「『大台ヶ原・大杉谷の自然』、昭和 54 年」より抜粋)



ウラジロモミーブナ群集の分布

(「日本植物群落図説」、宮脇・奥田、1990 年) より抜粋